



嵯峨大念佛狂言 嵯峨狂言クラブ発表会

一橋弁慶 二土蜘蛛

日時 令和七年三月二十九日(土)
場所 清凉寺(嵯峨釈迦堂) 狂言堂
時間 午後一時開場 午後一時半開演



今年度で卒業する6年生



牛若丸と弁慶が対決する場面

練習風景

「土蜘蛛」の飛び込みは
みんなでチャレンジ!



お稽古中は
みんな真剣



土蜘蛛と保昌の対決シーン

嵯峨狂言クラブ

「嵯峨狂言クラブ」は、昭和六十三(一九八八)年に、地域の伝統芸能の啓蒙普及活動の一環として結成されました。
現在、京都市内の就学前児童や小学生、そして演技、所作指導者として嵯峨大念佛狂言保存会有志数名が所属しています。
稽古は、毎週土曜日、午後から清凉寺狂言堂にて行われており、一年に一度、二月末〜三月初旬に発表会を開催しています。また、保存会の定期公演へ役者として参加することもあり、日々の稽古の成果を披露する機会を得ています。

狂言クラブ メンバー募集中

京都市内在住の幼稚園年少から小学六年生までのメンバーを募集中です。興味のある方はぜひご連絡ください。
狂言クラブお問い合わせ
☎080-1414-4864(加納 敬二)

嵯峨大念佛狂言保存会 今後の公演日程

■春の公演

日時/令和7年4月6日(日)・
4月12日(土)・4月13日(日)
時間/いずれも1時半～
※会場は清凉寺境内、狂言堂

嵯峨大念佛狂言保存会お問い合わせ
☎080-1414-4864(加納 敬二)
E-mail vtmi19509@leto.eonet.ne.jp
WEB www.sagakyogen.info



橋弁慶

配役

あらすじ
夜になると、五条大橋に現れた牛若丸が、侍たちを斬り捨てています。ある夜、弁慶は、従者は五条大橋に行くと言います。従者は人斬りが現れるので思い留まるよう進言しますが、弁慶は聞かず、五条大橋へと向かいました。

五条大橋では、牛若丸が再び、橋の欄干の上に立って侍たちを斬り捨てていました。そこに弁慶と従者が現れます。弁慶は人斬りがいることに気がつき、周囲を探ります。そしてついに牛若丸と対決します。

弁慶は薙刀で牛若丸に挑みますが、牛若丸にひらりとかわされ、薙刀を叩き落とされてしまいました。再度、刀を向けますがそれでも歯が立ちません。力尽きた弁慶は、牛若丸に降伏し、家来になる約束をしてその場から立ち去ります。

土蜘蛛

配役

あらすじ
源頼光が元氣のない様子で、家来の渡辺綱と平井保昌、太刀持と登場し、酒盛りを始めました。しかし、飲み続けるうちに具合がさらに悪くなって、眠り込んでしまいました。家来たちは、頼光を置いて控えの間に立ち去ります。すると土蜘蛛が現れました。それに気がついた頼光と斬り合いとなり、土蜘蛛は逃げ去りました。騒ぎを聞きつけた家来たちが戻ってきます。頼光は綱と保昌に土蜘蛛退治を命じます。命令を受けた二人は、たすき掛けをして戦いの準備をし、松明をかがけながら、屋敷の中を探り始めました。

まず先に屋敷の奥で綱が土蜘蛛に出くわしました。太刀廻りとなり、土蜘蛛は逃げます。続けて保昌と土蜘蛛が鉢合わせをし、戦いになります。再び土蜘蛛が逃げようとした時、綱が登場。挟み撃ちにして土蜘蛛を追い立て、ついに打ち取ります。二人は勝利の証である首を取って揚々と退場します。

- 牛若丸 北村 孟裕 (西京極小六年)
- 弁慶 大谷 隆弥 (朱雀第一小二年)
- 従者 岡田 琴美 (高雄小五年)
- 斬られ 延原 啓太 (一燈園小二年)
- 北村 基彰 (西京極小四年)
- 平井 歩 (嵯峨小五年)
- 通行人 山下 せり (嵐山小二年)
- 土坂 美こと (山ノ内小一年)
- 岡田 真由美 (高雄小二年)



「橋弁慶」は経験豊かな子どもたちがメリハリのある演技で舞台を引っ張ります。初舞台を迎える子どもたちの初々しい演技にもご注目ください。

- 源頼光 田部 井 慧吾 (嵯峨小六年)
- 渡辺綱 為季 源太 (嵯峨小四年)
- 平井保昌 為季 新太 (嵯峨小四年)
- 太刀持 松本 波留 (嵯峨小二年)
- 土蜘蛛 松本 理玖 (嵯峨小六年)



「土蜘蛛」は子どもたちに人気の演目の一つです。今回は、保存会で演じられる伝統の脚本に沿って子どもたちが息の合った演技を見せてくれます。

- 後見 橋 隆仁 松井 銀司
- 小檜山 一良 芳野 明
- 囃子方 (鉦・太鼓) 加納 敬二 (笛) 近藤 奈央
- 松本 紗奈 (嵯峨中三年)
- 為季 なぎ (西京高校附属中三年)
- 着付方 小西 小三郎 小西 葉子
- 中川 登志子 榊原 志保
- 松本 雅代
- 記録方 池内 恵二

嵯峨大念仏狂言の豆知識

「橋弁慶」と「土蜘蛛」の演目に共通する「戦い」を示す動作を簡単に解説。家来に向かって「戦ってこい」と命令するときや、仲間に「戦った」と報告するときなどに登場する身振りです。

- 前に伸ばした左腕をトントンと右手で2回叩きます。
- 右手を首元から右脇まで斜めにおろします。
- 右足を前に踏み出して両肘を引き、両脇の横に手を添えます。
- 両手を前方に伸ばします。

嵯峨大念仏狂言

京都市の西郊、嵯峨の釈迦堂の名で親しまれている清涼寺の境内で執り行われる「嵯峨大念仏狂言」は、昭和六十一(一九八六)年に国の重要無形民俗文化財に指定されました。

役者全員が面を付ける。参加者は民間人。セリフがなく、身振り手振りだけで芝居が進行する。という点に大きな特徴があり、約二十番の演目が残されています。勧善懲悪、妖怪退治などを主題とするもの(カタモン)と、喜劇仕立てのもの(ヤワラカモン)に大別され、今回の演目は二つともカタモンに属しています。

嵯峨大念仏狂言の歴史は古く、言い伝えでは鎌倉時代中期に融通念仏を広めた円覚上人導御の創始とされています。資料から見ても、嵯峨大念仏狂言には室町時代(享祿二「一五二九」年)の銘を持つ面が伝わっており、すでに五百年近い歴史を有していると考えられます。この他にも、優秀な面打ち師であった喜兵衛の刻銘を持つ女面(深井)や、和宮降嫁の際に宮中の女官としてその説得にあたった高野房子の菩提を弔うために奉納された装束など、美術史的にも宗教史的にも価値の高い数々の資料が伝わっています。

昭和三十八(一九六三)年、後継者不足や経済的理由により休止状態となりましたが、昭和五十一(一九七五)年に「嵯峨大念仏狂言保存会」が結成され、その翌年に復活公演を果たします。また国庫補助事業の助成を受けて、平成三十(二〇一八)年に活動の拠点である清涼寺狂言堂の保存修復工事を執り行いました。

現在は、春季公演(四月の第一日曜とその次の土・日曜)、秋季公演(円覚上人の命日との言い伝えがある十月二十六日に近い日曜)、お松明公演(三月十五日の清涼寺涅槃会に伴うお松明式の直前)を定期公演としています。

※後見以下は、嵯峨大念仏狂言保存会会員